



詩篇第五卷 都上りの詩

詩篇132篇

Ps 132

2012.8.23

<同じことば>

- 2歴6:42b [1 ダビデ
2 ヤコブの全能者 誓い
1歴17:22: 3
主の家を建てる 4
5 ヤコブの全能者 住まい 見いだし 4672
6 見いだし 4672
7 住まい
2歴6:41-42a [8 安息の場所
9 義を着る 祭司 聖徒が喜歌
10. ダビデ 油注者 うし35向かい 7725

244エリ
7:12-16

- 11 ダビデ 誓い 位に 35 取り消さない 7725
12 (位に) 住む 位に 35 とこしえ
13 住む 望む 183 シオン
14 住む 望む 183 とこしえ
15 (シオン)
16 移いと着る 安息の場所 祭司 聖徒が喜歌
17 ダビデ 油注者
18 恥を着る

<関連することば>

- 3, 4, 休まない, 8, 14, 安息
- 3, 4, 6, 7, ... 主の住まい
- 7, 主の安息, 8, 御力の箱, 1歴28:2
- 8, 立ちあがてくださ, 民10:35 - 契約の箱
- 12, 契約とさとしを守る - 契約の箱 - 申命記

Ps 89, ダビデの誓い, - オラ3巻「神の住まい」の最重要詩篇

詩篇132篇、都上りの歌の中の一番重要なものです。都上りの歌は、120篇から134篇。短い詩篇が並んでいますけれど132篇だけは長いです。132篇は都上りのそのシャローム。平和と平安の祝福、詩篇の中の何故シャロームが与えられるのか、何がシャロームなのか、ということが短く鍵になっている詩篇ということです。

132篇は、他の詩篇よりも同じ言葉に色を塗ると繰り返し出て来る言葉が多いです。そして、はっきりとした対比がある詩篇になっています。

例えば、10節の「油注がれた者の顔を後ろへ向けしないでください」ということと「主は取り消さない、取り消すことのない真理である」という、戻さない、戻さないというのが同じ言葉だったり、12節の「とこしえにあなたの位につくであろう」あなたの位に住むという言葉とわたしはそこに住もうという「住む」という言葉が関係していたり、並行していたりというようなところも見てくださいね。

それと、(9節)「祭司は義を身にまとい」、祭司は救いを着ている、それに対して18節で、「敵は恥を着ている、恥を着せる」、それは、ヘブル語でも着せるなんだね。そのまま着るという言葉が並行しています。ということで、よく見て比べてください。

Ps 132

2012.8.23

<同じことば>

2歴代6:42b [1 ダビデ

2 ヤコブの全能者 誓い

1歴18:

22:

主の家を建てる

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

340

341

342

343

344

345

346

347

348

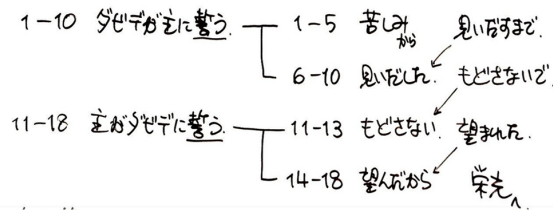
349

350

351

Ps132.

2012.8.23



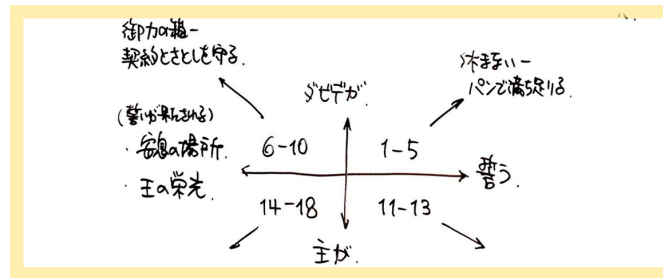
それで、そのような箇所を思い出しながら段落を分けると、ダビデが主に誓うことと、主がダビデに誓ってくださるという大きな2つの段落の分かれているところがあります。今言った歴代誌のところで囲まれている段落と、主がダビデに誓われたというところからの11節から。その中を2つずつに分けることができます。

1から5、6から10、11から13なのか12なのかと言っていたのですが、11から13。14から18。そして、それぞれの段落の終わりのところが次のところの始まりで応答しているような形で進んでいきます。

最初の段落は御住まいを「見いだすまでは」と言って、今度「見いだした」と言って始まります。「戻さないでください」と言って「戻しません」と言って始まります。「望んだところに」「わたしは望みましたから」というふうな、終わりと始め、終わりと始め、終わりと始めが並行している形で各段落が連携しています。

最初は苦しみ、すべての苦しみから今度最後には冠の栄光が輝くということで、苦しみから栄光へ、「見いだすまでは」「見出した」、「戻さないでください」「戻しません」というようにつながっている誓いの応答ということが全体の流れです。

どの段落にも出ていることは、王について、家についてというダビデに約束された大きな2つの祝福です。主は王である、ダビデの子が王となる。双方向ですね。家も主はシオンに住んでくれる、それに対して住まわされた者は喜び歌う。それと王座に住む、着くことになる。この2つ、王と民のことはシオンに住むことに対する応答としての2つ。この2つがないと、主はシオンに住んでいるということがわからない。もしくは、主がシオンに住んでくださるならば、王となり民となる者たちがここに平和に住むことができるということだと思います。



王 主は王である。ダビデの子が王となる。

家 主はシオンに住む。ダビデの子が王座に住む。
祭司と聖民は喜び歌う。

この（表）4つの段落の並行は、前半(1-5,6-10)はダビデが、後半(11-13,14-18)は主がということです。A(1-5)B(6-10)A(11-13)B(14-18)でいうと、この2つ[A(1-5)A(11-13)]の組み合わせは誓う話。そして、こちら[B(6-10)B(14-18)]誓いが果たされることの中に、2つです。王の話と家の話、安息の場所と主の栄光。クロスしているところでは、真ん中の2つは御力の箱という言い方で契約の箱のことを言いますね。立ち上がってください。契約の箱の話と、私の契約と私の教える私のさとしを守るならばということ。契約の箱のつながり。それと、1から5のところは、わたしは寝ません、休みませんということに対して、シオンの食物で豊かに満たしてくださいというその並行がクロスのところにあると思います。

<関連することば>

- 3. 4. 休まない。 8. 14. 安息。
- 3. 4. 家。 7... 主の住まい。
- 7. 主の足台。 8. 御力の箱。 1歴28:2
- 8. 立ち上がってください。 民10:35 - 契約の箱。
- 12. 契約とさとしを守る - 契約の箱。 - 申命記。

Ps 89. ダビデの誓い。 - オラ3巻「神の住まい」の最重要詩篇。

ただ、ことばのつながりだけではなくて、休む、休まない、安息する、安息のことばの関連するところ、我が家と住まいとか、主の足台と御力の箱が同じ意味とか、それは、第1歴代誌28章ですね。立ち上がってくださいという言い方で契約の箱を思い出すとか関連することばもありますし、特に89篇のダビデの誓いということで、132篇と同じような内容になっていますけれど、89篇は第3巻の鍵になっている詩篇です。第3巻は主の家について、主がエルサレムに住んでくださる、都についての巻きものですが、その中心となるものもダビデの誓いの詩篇。

この都上りのシャロームの祝福、エルサレムの祝福、シオンに住むことの祝福の詩篇の土台になっているのも契約の誓いの詩篇であるということで、132篇を言ってこれを覚えながら、都上りの詩篇120篇から134篇までのつながりをどうなのかということを見ていかなければなりません。